

# 平成29年産 コメ通信

第8号（平成29年7月26日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課  
（電話0186-62-1835）

## いもち病と斑点米カメムシ類の適期防除を！

▼飼料用米も主食用米と同様に、病虫害防除を行ってください▼

### 1 気象経過と生育状況

#### 【気象経過】

- 7月は、気温が平年より高く推移し、日照時間も平年より多くなっています。
- 降水量は、まとまった降雨（3日、16日、22～23日）があり、平年より多くなっています。中下旬の降雨により一部ほ場で冠水が見られました。

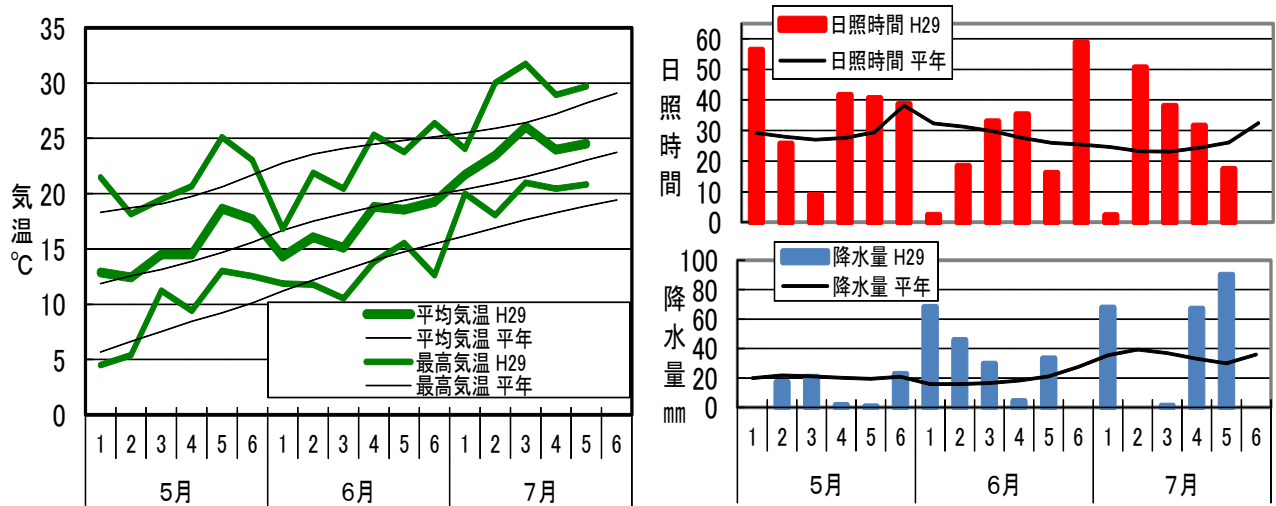


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

#### 【生育状況（定点調査結果）】

- 7月25日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種あきたこまち）の生育は、平年と比べて草丈は平年並、茎数は少なく、葉数は進んでおり、葉色が濃くなっています。
- 生育が早いほ場では走り穂も見られましたが、ほ場間の生育差が大きくなっています。
- 日平均気温から算出したあきたこまちの出穂期は、中苗の5月20日植えで8月4日頃と平年より早まる予測となっています。
- いもち病の病斑や畦畔での斑点米カメムシが観察されますので、防除の徹底をお願いします。

表1 定点調査結果（7月25日・あきたこまち）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色
本年	74.1	511	12.6	38.6
平年	73.4	530	12.4	36.2
前年	69.7	496	12.4	35.9
平年比較	101%	96%	+0.2	107%
前年比較	106%	103%	+0.2	108%

※平年は過去10カ年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

表2 出穂期の予測（アメダス鷹巣）

田植日	出穂期
5月15日	8月2日
5月20日	8月4日
5月25日	8月8日
5月30日	8月11日

※あきたこまち中苗。7月25日以降は平年値で計算。出穂期は全茎数の40～50%が出穂した日。穂が少しでも出ていれば出穂とする。

## 2 追肥判断（減数分裂期）

- あきたこまちの場合、5月20日頃までに田植えをしたほ場では概ね減数分裂期を迎えているので、葉色が淡く、草丈が74cm以下であれば、稲体の活力を維持するため、直ちに10a当たり窒素成分で1～1.5kgの追肥を行います。
- 加工用米や飼料用米等の目標収量が高い品種は、減数分裂期に10a当たり窒素成分で1.5kgの追肥を行い収量確保に努めます。

## 3 気象変動に対応した水管理

- 出穂期までは間断かん水が基本となります。出穂期から開花期は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は湛水状態にして水を切らさないように管理してください。
- 気温が30℃以上になる場合、地域の用水条件に応じて、水の入替など地温を下げる水管理を行い、根の機能減退を防止します。また、フェーン現象などで乾燥した風が強く吹く日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。
- 冠水した稲体は、水分調節や肥料吸収等の機能が低下していることから、田面の過度の乾燥に注意します。

## 4 病害虫防除の徹底

### 【いもち病（穂いもち）】

- 葉いもちの発生が認められる場合は、出穂7～15日前にコラトップ粒剤5の散布を行うか、出穂直前と穂揃期に予防剤（ラブサイド剤またはビーム剤）の茎葉散布を行います。
- 葉いもちが多発している場合は、上記薬剤散布に加え、必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。
- 冠水したほ場は、病害虫が発生しやすくなることから、特にいもち病の発生に注意し、必要に応じて防除を行います。

注意：ラブサイド剤（フサライド）を含む農薬の総使用回数は「3回以内」です！

### 【斑点米カメムシ類】

- 薬剤防除は、1回目にスタークル剤またはアルバリン剤の茎葉散布剤を、出穂期10日後頃に畦畔を含めて散布し、1回目の薬剤散布後7日以内に農道・畦畔の草刈りを行います。2回目薬剤散布は、多発が予想される場合や次のようなほ場では、出穂期24日後頃にキラップ剤（使用時期は収穫14日前まで）を畦畔を含めて散布します。
  - ⇒ イネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接したほ場
  - ⇒ 水田内にカヤツリグサ科雑草やノビエ類が多発しているほ場

	薬剤名	希釈倍数	散布量/10a	散布時期
1回目	スタークル粉剤DL	—	3kg	出穂期
	アルバリン粉剤DL	—	3kg	
	スタークル液剤10	1,000倍	150 <sup>リットル</sup>	10日後頃
	スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 <sup>リットル</sup>	
2回目	キラップ粉剤DL	—	3kg	出穂期
	キラップフロアブル	2,000倍	150 <sup>リットル</sup>	24日後頃

- 法面や休耕田等の雑草地は、稲の収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- 近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで  
HPは「北秋田 コメ通信」で 検索 ～次回発行は8月下旬予定～